

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年2月12日(2010.2.12)

【公開番号】特開2007-186681(P2007-186681A)

【公開日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2007-028

【出願番号】特願2006-330188(P2006-330188)

【国際特許分類】

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 B 67/20 L

C 0 9 D 11/00

B 4 1 M 5/00 E

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月4日(2009.12.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

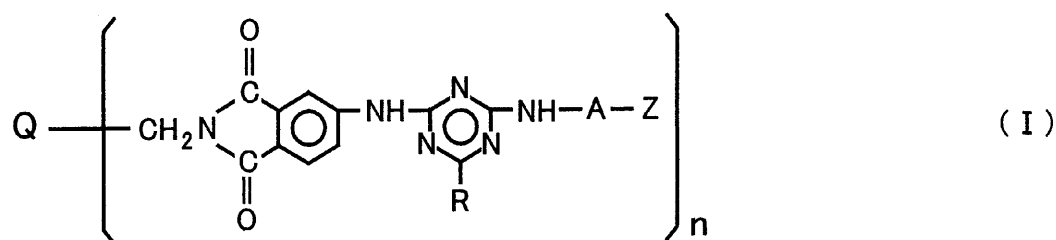
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化 1 で示す一般式 (I) の化合物またはその金属塩、アンモニウム塩若しくはアミン塩からなる顔料誘導体。

【化 1】



(式中、Q は芳香環を有する有機色素残基、A は、エチレン基、フェニレン基またはナフチレン基であって置換基を含むものであってもよく、R は水酸基または - NH - A - Z で示される基を表し、Z は - SO₃H または - COOH で示される基を表し、n は 1 ~ 4 の整数を表す。)

【請求項 2】

有機色素残基 Q が、フタロシアニン系色素残基、キナクリドン系色素残基、ジケトピロロピロール系色素残基、アントラキノン系色素残基およびアゾ系色素残基からなる群から選択されるものである請求項 1 記載の顔料誘導体。

【請求項 3】

有機色素残基 Q が、キナクリドン系色素残基である請求項 2 記載の顔料誘導体。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の顔料誘導体を含む水系または非水系顔料分散剤。

【請求項 5】

請求項 3 記載の顔料誘導体を用いてキナクリドン系色素を分散してなる色材を含有する水性顔料分散体。

【請求項 6】

請求項 3 記載の顔料誘導体を用いてキナクリドン系色素を分散してなる色材を含有することを特徴とする水性インク。

【請求項 7】

界面活性剤をさらに含んでなることを特徴とする請求項 6 に記載の水性インク。

【請求項 8】

グリコールエーテルをさらに含んでなることを特徴とする請求項 6 または 7 に記載の水性インク。

【請求項 9】

1, 2 - アルキレングリコールをさらに含んでなることを特徴とする請求項 6 乃至 8 の何れかに記載の水性インク。

【請求項 10】

前記界面活性剤がアセチレングリコール系界面活性剤、アセチレンアルコール系界面活性剤およびシリコン系界面活性剤から選ばれた 1 種以上であることを特徴とする請求項 7 に記載の水性インク。

【請求項 11】

前記グリコールエーテルがアルキレングリコールモノアルキルエーテルである請求項 8 に記載の水性インク。

【請求項 12】

前記アルキレングリコールモノアルキルエーテルが繰り返し単位 10 以下のアルキレングリコールであって、且つ炭素数 5 ~ 11 のアルキルエーテルであることを特徴とする請求項 11 に記載の水性インク。

【請求項 13】

前記アルキレングリコールモノアルキルエーテルがジ(トリ)エチレングリコールモノブチルエーテルおよび/または(ジ)プロピレングリコールモノブチルエーテルであることを特徴とする請求項 12 に記載の水性インク。

【請求項 14】

前記 1, 2 - アルキレングリコールが炭素数 4 以上 10 以下の直鎖または分岐 1, 2 - アルキレングリコールである請求項 9 に記載の水性インク。